

## 2015 年度 事業計画

## 【1. 海外災害(地)への救援活動事業】

事業名	1-(1) アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県、パンジシール州
受益対象者の範囲及び予定人数	① ミールバチャコット地域の 4 村。人口は約 15,000 人、1560 世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 537 世帯(2015 年 3 月時点)。 ② アフガニスタン雪崩災害救援プロジェクト パンジシール州の被災地の約 300 世帯。
実施内容	<p>①ぶどう畑再生支援事業</p> <p>●2015 年度の計画</p> <p>2003 年、288 世帯を対象にスタートしたコーポラティブシューラー(ぶどう協同組合)は現在、537 世帯まで拡大した。2015 年度も引き続き、このミールバチャコット産の有機レーズンを日本で販売する。この支援プロジェクトを中心に、組合員の増員を図ると共に同地区を中心に無農薬・有機栽培によるぶどう農家のさらなる拡大をめざす。そしてレーズンを活用して積極的にアフガニスタンの現状を発信し、これまで支援して下さった方々に呼びかけると共に新たな支援者の拡大に努力する。</p> <p>昨年の大統領選挙においてガニ新大統領、アブドラ行政庁長官の新体制が決定し、治安の安定と経済発展が期待される。同国の指導者はパキスタンとの友好関係の回復も模索しており、ぶどう農家にとっては期待できるところである。</p> <p>なお今後は、(特活)日本フェアトレード委員会(熊本市)のサポートを受けるものの CODE 独自の加工販売とする。</p> <p>(1)ミールバチャコット産有機レーズンの日本での販売</p> <p>社会福祉法人小規模作業所シティライト(神戸市)の協力のもと、レーズンの輸入、販売を行う。これを契機として日本の支援者の関心をさらに高めることにより年間の現地固定管理費(8400ドル)を賄い、自立へのサポートを継続する。</p> <p>2015 年 4 月に到着した 20 kg の輸入で総計 260 kg(2013 年 11 月から)になる。新聞掲載などにより現在も注文も少なくなく、発送待ちの状態にあるほどである。今年度は 300 kg/年を目標に輸入する予定である。</p> <p>(2)「れーずんの会」などでレーズンを食べながらアフガニスタンを知ってもらおう機会を作り、レーズン販売などにも協力してくれる人を増やす。</p> <p>*れーずんの会の開催状況</p> <p>第 1 回 れーずんの会(2014 年 3 月 28 日 参加者 18 名)</p> <p>第 2 回 れーずんの会(2014 年 4 月 25 日 参加者 19 名)</p> <p>第 3 回 れーずんの会(2014 年 10 月 16 日 参加者 11 名)</p> <p>第 4 回 れーずんの会(2015 年 4 月 16 日 参加者 9 名)</p> <p>第 5 回 れーずんの会(2015 年 10 月頃 開催予定)</p> <p>*7 月 11 日 コープこうべ第 3 地区「平和を願うつどい」でレーズン販売(上野)</p>

	<p>(3)電話注文、イベントなどでの臨時販売だけでなく、委託販売などの販路の拡大を図る。</p> <p>②アフガニスタン雪崩災害救援プロジェクト</p> <p>2015年2月24日にアフガニスタン北東部で雪崩災害が発生し、ラフマンさんをカウンターパートに救援事業を立ち上げた。現在も被災地の情報が十分に入っていない状況はあるが、家屋の倒壊や新たな雪崩の危険性から被災地では約500家族が今後、他の土地に移住しなければいけないと予想されている。</p> <p>ラフマンさんは、被災者が住居を確保するまでの間の食糧支援や災害に関するワークショップを予定している。北部への道路が復旧する4月を目処に、現地の様子を踏まえて救援プロジェクトの詳細を提案する。CODEに寄せられた寄付金(約16万円)を使ってラフマンさんが提案する活動をサポートする。</p>
--	--

事業名	1-(2) 中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民
実施内容	<p>●2015年度の計画:</p> <p>① 老年活動センターの運営</p> <p>2013年に専門家によるワークショップを開催し、村民委員会が合作社(協同組合のようなもの)の設立する事に言及したが、未だ実現はしていない。今後、前年度に寄贈植樹した桜を使った集客や開花に合わせたイベントなども住民自身が企画していく予定。CODEは今後もセンターの動向を見守り、状況に応じて支援を行う。</p> <p>② CODE 2” (中国版 CODE のような組織)の構想</p> <p>CODE2の構想は、提案者の四川復興管理学院の顧林生氏と協議中であるが、今年度6月に実施予定の第2回日中 NGO・ボランティア研修交流事業を通じて四川の NGO や顧林生氏と引き続き可能性を探る。</p> <p>③ 現地 NGO とのネットワークとの交流・研修</p> <p>今後のアジアでの災害時の連携を強化するために、また、現在の日中関係悪化の中でも確実に民と民でしっかりとつながっておくためにも、現地 NGO とのネットワークを意識的に深めていく。具体的には、全2回の日中 NGO・ボランティア研修交流事業を通じて顔の見える関係を築き、今後の日中両国での災害救援の連携を深めていく。なお、この事業は CODE 未来基金の第1号事業として同基金から助成を受けた。</p> <p>今年度の予定</p> <p>*4月16日 日中経済知識交流会に出席(芹田代表理事)*終了</p>

	<p>* 第 2 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業(吉椿、上野) * 終了</p> <p>2015 年 6 月 12 日～21 日に開催。四川の NGO を日本に招聘し、日本の学生と共に神戸、中越の被災地を訪問、視察し、日本防災、復興、NGO の関係者から講義を受けた。CODE からは、室崎副代表理事、山添理事、村井理事に講義を行っていただいた。講義研修の参加者は、のべ 73 名(講師除く)</p> <p>四川からの招聘者は以下の 3 名。なお第 1 回は 2015 年 3 月に終了した。</p> <p>高 圭滋さん(四川尚明公益発展研究センター主任)</p> <p>張 国遠さん(NGO 備災センター事務局長)</p> <p>羅 丹さん(成都根与芽環境文化交流センター主任)</p>
--	---

事業名	1-(3) ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 1 月 13 日～継続中
実施場所	ハイチ共和国レオガン
受益対象者の範囲及び予定人数	レオガン周辺住民
実施内容	<p>●2015 年度の計画</p> <p>2015 年 4 月現在、農業技術学校(ETAL)の校舎は 9 割ほど完成している。その一方で 2014 年 10 月より顧問の一人である Blot さんの職業訓練学校(CCFPL)の校舎を借りて、授業を開始している。現在 17 名の学生が農業を学んでいる。</p> <p>ETAL が完成し次第、学生は新校舎に移って農業を学ぶことになる。ハイチの貧困状況からみても、CODE は農業技術学校の建設のみにとどまるのではなく、今後も学校を見守っていかなくてはならない。具体的には、学校が完成後、日本大使館による机、椅子などの設備提供の調整を行う。また、学校の初年度の運営資金(2 年間)はシスター須藤のクリストロア修道女会に集まった地震への寄付金や災害看護支援機構の支援金などで賄う。</p> <p>今年度 7、8 月頃に災害看護支援機構の方とハイチを訪問する予定である。その際に農業技術学校の状況を視察し、運営状況を把握する。また、事務所の家賃補助をした日本ハイチ協会の活動も合わせて視察する。</p> <p>今後、Blot 神父、クリストロア修道女会などの顧問会や日本大使館、FutureCode、ハイチ友の会、日本ハイチ友好協会、木村さん(JEN スタッフ)、大瀧さん(大阪大学大学院)などと連携しながら ETAL の顧問委員会の一員として農業技術学校を見守っていく。</p>

事業名	1-(4) 中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 4 月 14 日～継続中
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省 540 万人、玉樹チベット族自治州人口 28 万人、玉樹県 10 万人
実施内容	<p>●2015 年度の計画:</p> <p>2014 年 8 月に吉椿が現地を訪問し、ヤク銀行プロジェクトの状況を視察した。カトゥ村の</p>

	<p>遊牧民家族に提供された 37 頭のヤクは、現在、53 頭になっている。提供されたヤクの中には、厳寒な天候や病気等により死亡したものもあるが、確実に増えてきている。現在、地元の政府もこのプロジェクトに関心を示しており、ヤク銀行が広まる可能性もある。今後、イアニさんやヤク銀行委員会を通じて、このヤク銀行のよりよい仕組みを模索すると同時にヤクの生育状況や遊牧民の生活状況を見守っていく。</p>
--	--

事業名	1-(5) インドネシア・ジャワ島中部地震救援プロジェクト(通称:呼び水プロジェクト)
実施日時	2006 年 5 月 27 日～継続中
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県 パンガン郡ギリセカール村内のナワンガン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約 130 名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ギリセカール村 7000 名、パンガン郡 2 万 7000 名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>集落では、CODE が支援した水道支管により、従来の水道料金より安くなった分を水組合の基金としている。住民は基金からの融資によってヤギ飼育を行っており、これが住民の間で広く利用されるようになってきている。仕組みとしては子ヤギを購入する資金を組合が融資し、育てて販売したときの利益を組合と飼育者で折半するというものである。このような住民の動きに関して現地キーパーソンを通して情報収集を続ける。</p> <p>2011 年～2013 年まで浅野教授の授業「海外研修」にスタッフが同行させていただいてきた。</p> <p>今後も、住民としっかりとした関係を作っている神戸学院大学の浅野壽夫教授(CODE 正会員)や江田英里香先生たちの展開するこのヤギ基金プロジェクトを CODE は支援していく。今後、江田先生をお招きして寺子屋などでヤギ基金の報告をしていただく予定。</p>

事業名	1-(6) 東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011 年 3 月 14 日～継続中
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>●2015 年度の計画:</p> <p>東日本大震災から 4 年を経た情報は、被災地 NGO 協働センターを通じて共有している。</p> <p>2013 年 11 月にフィリピンで発生した台風災害&lt;1-(7)&gt;では、日本とフィリピンとの関係の深さを知った。民間の支え合いの連鎖は確実に広がった事を受けて、CODE は、海外と東日本の被災地等をつなぐ役割を再度見直していく。そのためにも東日本大震災の状況なども英語で発信していく。また HP の英語サイトも充実させていく。</p> <p>フィリピン事業と重複するが、フィリピンの NGO や漁民と東日本大震災の被災地との交流事業も検討する。</p>

事業名(継続)	1-(7) フィリピン台風 Haiyan 救援プロジェクト
実施日時	2013 年 11 月 8 日～継続中
実施場所	セブ島北部、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバラングイ(最少行政単位)の漁師や女性 約 1000 人
実施内容	<p>●2015 年度の計画</p> <p>2014 年秋頃より現地の NGO ネットワークを通じてセブ北部の小島 Lipata 島にて船大工によるボート製作を行い、2015 年 2 月にはボート 2 艘がバンタヤン島のバラングイ POOC の被災漁民に提供された。今後の計画は以下の通り。</p> <p>① 漁業支援(ボートと漁網の提供)</p> <p>今後も NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」の加盟団体である SPFTC や FIDEC を通じて、残り 5 つのバラングイへのボートや漁網の提供を行っていく。</p> <p>また、提供後の住民教育(心のケアや防災教育など)の知恵の支援も行いつつ、被災漁村を見守っていく。また、漁村の女性の地位向上のための雇用創出なども追求していく。</p> <p>② 東北の漁民との交流</p> <p>津波と台風・高潮という災害は違えど、海辺での暮らしのあり様が問われているという点では、日本もフィリピンも同じ課題を抱えている。フィリピンの NGO、漁民を日本に招聘し、両国での漁村での支え合いや協働を共に学ぶ合う機会を模索する。具体的には、室崎副代表やコープこうべ(みやぎ生協)とのつながりのある東北の漁村との交流を追求し、クラウドファンディングなどを活用して、資金、協力者を募る。</p> <p>* 上記のように計画していたが、現在の財政状況からこれを実施するには厳しい現状である。よって今年度はこの交流を据え置き、次年度以降、時機を見て再度計画する。</p> <p>③北陸学院大学や JICA 北陸との連携事業の可能性</p> <p>3 月に北陸学院大学の田中先生と CODE の協働でバンタヤン島で行った学生のボランティアキャンプをきっかけに、田中先生は JICA との事業で今後もフィリピンの被災地支援を模索している。CODE もこの事業に連携する事で、女性の雇用などセブ島の被災地支援の新たな展開を追求する。</p>

事業名(継続)	1-(8) ネパール地震救援プロジェクト
実施日時	2015 年 4 月 25 日～継続中
実施場所	ネパール中部、東部のシェルパ族の村など
受益対象者の範囲及び予定人数	ネパール地震約 3000 人

実施内容

●地震発生からの経緯

ネパールでは、81年ぶりに大規模な地震(M7.8)に襲われた。ネパール全75郡のうち39郡が被災し、うち29郡が大きな被害を受けた。被害の概要は以下のとおり。死者8650名、被害家屋約77万棟、被災者約810万人(国民の約3分の1)。

CODEは元スタッフ、斉藤容子さんや故黒田裕子理事の団体の元ボランティアの井上想さん、神戸在住のネパール人、ラクパ・シェルパさんなどのつながりを通じてネパールにスタッフ2名(吉椿、上野)を派遣し、調査を行った。この派遣によってネパールの伝統建築家、篤農家、日本人医師、山岳民族シェルパ族のコミュニティなどとの関係を築いた。今後、CODEは伝統建築を活かした耐震のモデルハウスの建設を支援の届いていない辺境のシェルパ族などの地域で行う予定である。その際に大工、石工などのトレーニングなどをカトマンズ市内で行い、学んだことを自らの地域に持ち帰り、その土地の素材を使った耐震住宅の普及を行いつつ、シェルパ族の村の自立に向けた取り組みをサポートしていく。

\*主な動き

4/25 ネパール地震発生

4/26 救援活動開始

5/2~3 インフォラータ神戸で募金活動(細川、吉椿、上野、頼政)

5/3~14 第1次派遣(吉椿、上野)

5/14 毎日新聞取材(吉椿、上野)

5/15 朝日新聞、神戸新聞取材(吉椿、上野)

5/16 小倉潔子さんネパール地震報告会(上野)

5/18 NHK取材(吉椿)

5/21 日本基督教団兵庫教区の方のヒアリング(吉椿、上野)

5/25 サンテレビスタジオ出演(吉椿)

5/26 ネパールの青年海外協力隊員からのヒアリング(村井、吉椿、上野)

5/29 NVNADのネパール地震報告会(吉椿、上野)

6/1 神戸子ども専門学院でネパール地震報告会(吉椿)

CODEネパール地震支援活動報告会(吉椿)

6/3 竹内泰先生(東北工業大学)へのヒアリング(吉椿)

6/4 人と防災未来センターネパール報告会に参加(頼政、上野)

6/6 PHD協会ネパール報告会に参加(上野)

6/8 関西学院大学復興制度研究所松田曜子さんヒアリング(吉椿、上野)

6/9 NHK撮影(村井理事、吉椿、上野、ラクパさん)

6/17 21世紀研究機構「ネパール地震報告会 森伸一郎教授」に参加(村井理事)

6/19 檜戸健次郎ドクターネパール地震救援活動報告会に参加(村井理事)

6/24 神戸市立保育園連盟のネパール地震寄付の贈呈式(吉椿)

6/26 橘高校で講義(上野)

\*今後の予定

7/1 関西学院大学復興制度研究所「ネパール地震報告会」で報告(吉椿)

7/16 第15回食と国際協力「ヒマラヤの民シェルパ」を開催

(在神戸ネパール人 ラクパシェルパさん)\*2-(4)と重複

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011年4月～継続中
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	<p>2014年12月で退職した多田さんの後任が見つかるまでは、ボランティアさんの協力も得ながら、事務局を運営していく。また、CODE 未来基金を活用して積極的に CODE や災害 NGO で働く若者をサポートしつつ、新たな CODE のスタッフを探す。</p> <p>また、スタッフ上野の人件費を未来基金から捻出し、上野を未来基金の専従スタッフとする事で未来基金の運営を行っていく。</p>

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	<p>* 村井理事による寺子屋(3回程度)</p> <p>若いスタッフやボランティアさん、未来基金で CODE に参加する若者を対象に CODE の理念、活動などを伝えていただく。</p>
備考	

事業名	2-(3) ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学生や若者数十名
実施内容	<p>食と国際協力を通じてつながった新たな出会いを活かして、CODE に関わってくれる人、ボランティアを増やしていく。また、四川での研修事業の参加者が今後も CODE に関わってもらえるような場づくりを行う。具体的には、四川研修事業の参加者自身に報告会など企画してもらい、CODE に主体的に関わってもらう。</p>

事業名	2-(4) 月イチシリーズ「食と国際協力」
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般

<p>実施内容</p>	<p>2014年3月より開催している「れーずんの会」から派生した企画として「食と国際協力」を月1回、第3木曜日に開催している。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらう。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にもご参加いただき、CODEを知ってもらうと同時に、その中からCODEに積極的に関わる若者を発掘していく。</p> <p>*今年度の開催日程と内容(予定)</p> <p>第13回 れーずんの会～アフガニスタンからの贈り物 (村井理事、上野) *1-(1)と重複 (2015年4月16日)</p> <p>第14回 カンボジアの子どもたち(SVA ソティアロアットさん) (2015年6月2日)</p> <p>第15回 ヒマラヤの民シェルパ (在神戸ネパール人 ラクパシェルパさん) (2015年7月16日)</p> <p>第16回 スリランカという国 (人と防災未来センター 齊藤容子さん) (2015年8月20日)</p> <p>第17回 台湾とのきずな(京都大学防災研究所 李勇昕さん) (2015年9月17日)</p> <p>第18回 れーずんの会～アフガニスタンからの贈り物 (村井理事)*1-(1)と重複 (2015年10月15日)</p> <p>第19回 フィリピンからの学び(CODE 上野) (2015年11月19日)</p> <p>第20回 イランってどんな国? (奥、ナヒドさん夫妻) (2015年12月17日)</p> <p>第21回 エルサルバドルからの風(人と防災未来センター 岸本くるみさん) (2016年2月18日)</p> <p>第22回 多様な雲南(中国) (CODE 吉椿) (2016年3月17日)</p>
-------------	--

### 【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

<p>事業名</p>	<p>3-(1) 災害情報サイト(CODE World Voice)の運営</p>
<p>実施日時</p>	<p>随時(2002年からの継続事業)</p>
<p>実施場所</p>	<p>SOHO 形式や当センターなど</p>
<p>受益対象者の範囲及び予定人数</p>	<p>不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて</p>
<p>実施内容</p>	<p>「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト)やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。</p> <p>今年度も、災害発生時の情報発信の際などに引き続き活用していく。2013年11月のフィリピン台風災害以降、英語の翻訳ボランティアの参加が増えた。これを今後も維持し、英語発信につなげていく。</p>



【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学
実施日時	9月から1月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	40名 未定
実施内容	<p>① 「現代社会学部」(名称変更)の後期授業企画および講師派遣</p> <p>CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、8年目となる本年度も継続して神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(名称変更。今年度の授業は後期)の講師派遣を下記のスケジュールと講師陣で実施する。受講人数は約40名。</p> <p>《内容》</p> <p>9/29(火) 第1回 ガイダンス(村井理事)</p> <p>10/6(火) 第2回 阪神淡路大震災20年とボランティア(村井理事)</p> <p>10/13(火) 第3回 東日本大震災など国内災害とボランティア(村井理事)</p> <p>10/20(火) 第4回 ボランティアでもできる心のケア(村井理事)</p> <p>10/27(火) 第5回 CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について(吉椿)</p> <p>11/10(火) 第6回 フィリピン台風から学ぶ(吉椿)</p> <p>11/17(火) 第7回 東日本大震災とジェンダー(斉藤容子さん)</p> <p>11/24(火) 第8回 ハイチ地震から学ぶ(吉椿)</p> <p>12/1(火) 第9回 アフガニスタンと開発援助1(村井理事)</p> <p>12/8(火) 第10回 アフガニスタンと開発援助2(村井理事)</p> <p>12/15(火) 第11回 四川大地震とCODEプロジェクト(吉椿)</p> <p>12/22(火) 第12回 災害時における地域力と備えの大切さについて(織田峰彦さん)</p> <p>1/12(火) 第13回 農業と持続可能な社会(本野一郎さん)</p> <p>1/19(火) 第14回 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠理事)</p> <p>1/21(木) 第15回 まとめ(村井理事)</p> <p>その他の授業</p> <p>7月11日 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿)</p> <p>② インターンシップ受け入れ</p> <p>昨年同様に8月頃にインターンを受け入れる。</p>

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定

実施内容	<p>① 講師派遣 前年度と同様、派遣依頼があれば行う。 * 今年度の予定 ・9月4日 帝塚山学院大学集中講義（吉椿） ・2016年1月 龍谷大学国際特別講義(吉椿)</p> <p>② 関西 NGO 協議会提言専門委員会への参加。 前年度に引き続き委員を担う。(村井理事)</p> <p>③ その他必要に応じて行う。</p>
------	--

事業名	4-(3) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加 加盟団体である CODE も必要に応じて参加する。 4月9日 実践的参加型コミュニティ開発手法ミニセミナーに参加(吉椿) 4月11日 再生計画説明・意見交換会に参加(村井理事、上野) * 今後の予定 5月23日 関西 NGO 協議会の総会に出席(吉椿、上野) 10月 JICA-NGO 連携による実践的参加型コミュニティ開発研修に参加 (吉椿、上野) 12月 ワンワールド・フェスティバル for Youth に参加</p> <p>② TELL-NET フォーラム 今後の開催状況を見て参加する。</p> <p>③ コープこうべが実施されている地区の勉強会等への報告者派遣など 6月2日 コープ活動サポートセンター兵庫主催の地域コープ委員会学習会で講演 (吉椿) 7月11日 コープこうべ第3地区「平和を願うつどい」でレーズン販売(上野) * 1-(1)と重複</p> <p>④ 若者の団体とのネットワーク 災害時などに CODE と連携していただく若者の団体(ワカモノチカラプロジェクト、神戸大学 PEPUP、アイセック神戸大学委員会、NPO まなびと)との関係を深めていく。</p> <p>⑤ JPF、JANIC、JICA 関西、人と防災未来センターなどのネットワークとも引き続き災害時の情報交換などで連携していく。</p>

事業名	4-(4) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① フィリピン台風災害(2013年)を機にセブ島で活動する NGO ネットワーク、ABAG CENTRAL VISAYAS との連携を今年度も深めていく。</p> <p>② 2015年3月に実施した日中 NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに四川の NGO、四川尚明公益発展研究センターや NGO 備災センターとの関係を深めてきており、今後、両国の災害救援などで連携していく。</p> <p style="padding-left: 2em;">* 第1回日中 NGO・ボランティア研修交流事業 (2015年3月24日～30日 日本の参加学生6名)</p> <p style="padding-left: 2em;">* 第2回日中 NGO・ボランティア研修交流事業 (2015年6月12日～21日 中国からの招聘者3名)</p> <p>③ インドネシアの若者で作る防災や災害を学ぶバンドン工科大学のグループ、BDSG (Bandung Disaster Study Group)との関係も維持していく。</p>

【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>① CODE 理事による寺子屋(3回程度) 芹田代表、室崎副代表、松本理事など CODE の理念、活動、経験を次世代に伝えてもらう。7月以降、月に1回を予定。</p> <p>② 昨年度の室崎副代表理事の寺子屋4回シリーズの講義録を小冊子にする。 開催状況は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 「阪神・淡路大震災からの学び」(2014年7月25日) 参加人数:20人</li> <li>・第2回 「国内の災害復興からの学び」(2014年8月22日) 参加人数:19人</li> <li>・第3回 「海外の災害復興からの学び」(2014年9月26日) 参加人数:20人</li> <li>・第4回 「東日本大震災からの学びとまとめ」(2014年10月31日)参加人数:39人</li> </ul>

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>引き続き会員数拡大のため、有力な支援者約 700 名に対してニュースレターを送付する。また、2014 年度の賛助会員数は、のべ約 92 名・団体。これらの方々には継続して会員になっていただけるよう、より新鮮な情報を定期的に発信していく。そして新たな会員の増加をはかるための発信、寄付方法などを模索していく。</p> <p>2013 年度より寄付および会費の振込方法としてクレジットカード決済を導入したことで気軽に寄付できるようになったが、手数料の値上がりのため、2015 年 4 月よりクレジットカード決済を Canpan よりアナザーレーンに移行した。</p> <p>2014 年度より gooddo(寄付サイト)でのワンクリック募金を開始し、年間約 22000 円の寄付があった。</p> <p>また、今年度よりソーシャルアクションリングの HP で CODE を紹介してもらい、バナー広告を HP に貼る事で年間 15000 円の広告費を得る。</p>

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>・報告会： 今年度も、「食と国際協力」などでこれまでの救援プロジェクトの簡単な報告を行う。</p> <p>* 6 月 2 日に SVA(シャンティ国際ボランティア会)のカンボジアスタッフをお迎えし、「食と国際協力」の場を使ってカンボジアの子どもの状況を報告していただいた。</p> <p>* 第 1 回日中 NGO・ボランティア研修交流の報告会 日 時:2015 年 7 月 12 日(日) 場 所:未定 報告者:第 1 回事業で四川の被災地を訪問した学生 6 名</p> <p>* ネパール地震支援活動報告会 日時:2015 年 6 月 1 日 18:30~20:30 場所:こうべまちづくり会館 報告者:吉椿雅道、上野智彦、ラクパ・シェルパさん(在神戸ネパール人) 参加人数:104 名</p>

	<p>・講師派遣:引き続き行う。</p> <p>* すでに終了済み</p> <p>4月17日 関西学院大学「災害復興学入門」で講義(吉椿)</p> <p>4月17日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)</p> <p>4月24日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)</p> <p>5月1日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)</p> <p>5月8日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)</p> <p>5月15日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)</p> <p>5月29日 NVNAD ネパール地震報告会で報告(吉椿、上野)</p> <p>6月1日 神戸市立保育園連盟のネパール地震寄付の贈呈式(吉椿)</p> <p>6月2日 コープ活動サポートセンター兵庫主催の地域コープ委員会学習会で講演 (吉椿) *4-(3)と重複</p> <p>6月26日 楠高校で「ネパール地震」の授業(上野、吉椿) *1-(8)と重複</p> <p>* 今後の予定</p> <p>7月1日 関西学院大学復興制度研究所「ネパール地震報告会」で講義(吉椿) *1-(8)と重複</p> <p>7月4日 兵庫県立大学「災害と人と健康」で講義(吉椿)</p> <p>7月11日 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿) *4-(1)と重複</p> <p>7月28日 神戸大学 教養言論「阪神・淡路大震災」で講義(吉椿)</p> <p>9月3日 帝塚山学院大学 集中講義(吉椿) *4-(2)と重複</p> <p>2016年1月 龍谷大学国際特別講義 (吉椿) *4-(2)と重複</p> <p>1月 神戸市立楠高校で講義 (上野)</p>
--	---

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年3回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信(積極的にツイッターの利用を行う)
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	・機関紙は約700通 ・インターネットは不特定多数
実施内容	<p>・機関誌:4月、7月(総会報告のため)、12月(年末寄付募集のため)に発行予定。</p> <p>・メーリングリスト:逐次、災害救援レポートを発信。</p> <p>・ツイッター、FACEBOOK:逐次発信。 災害を忘れないシリーズを今年度も毎月、FBで発信。</p> <p>・ホームページ:ボランティアさんの協力でリニューアルした。英語版もボランティアさんによって逐次、翻訳していただいている。</p>

【7. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立に向けて
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	CODE AID の具体化に向けて取り組む。

事業名	7-(2) CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	—
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	本奨学金制度は、2005 年度にはじまり 2011 年度で 8 年目となった。初年度の該当者で元 CODE スタッフ斉藤容子さんの留学費の補助に充てられたが、それ以後は該当者不在で実施していない。なお、2014 年 12 月、斉藤さんよって全額返済された。今後、この返済された奨学金は、未来基金に組み入れ、今年度からは、「CODE 未来基金」* 7-(3) の中に奨学金部門を設定し、該当者がいればその都度、実施する。

事業名	7-(3) CODE 未来基金《新設》
実施日時	2015 年 4 月 1 日より
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働く事を目指す若者、若干名。
実施内容	<p>これまでの CODE の事業で 3 年以上凍結しているプロジェクト費の総計の半額(約 1000 万円)の資金を活用して、2015 年度 4 月より「CODE 未来基金」を立ち上げる事が、世界人権宣言、および第 1 回神戸宣言の採択の日である 12 月 10 日に承認された。概要は以下の通り。</p> <p>●「CODE 未来基金」の概要(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主旨: 災害救援を主たる目的とする NGO を志す若者に財政的な助成をする事で、若者に学ぶ場、働く場、生き方の選択肢などを提示する。</li> <li>・助成内容: 以下の 2 部門             <ol style="list-style-type: none"> <li>1 奨学金・・・CODE など災害 NGO で働きたい若者にインターン中の人件費などの財政的な支援を行う。 * 7-(2) と重複</li> <li>2 プロジェクト・・・NGO で実現したい企画を若者から提案してもらい、そのプロジ</li> </ol> </li> </ul>

エクトに対して助成する。(EX:セミナー、スキルアップ講座、語学研修、フィールド研修など)

・基金の財源: CODE の過去のプロジェクト費と寄付金

CODE が次世代の災害 NGO を担う若者と育ち合っていく事を広く社会に呼びかけ、サポーターを募る。里親制度のように顔の見える関係性を活かした共に育ち合う事業にもチャレンジする。

・寄付について: \* 一般寄付

個人一口 10,000 円、NGO/団体一口 30,000 円、企業一口 50,000 円

\* 未来基金サポーター

年会費: 1,000 円

・運営・選考: CODE 事務局が運営を担う。申請案件に関しては、理事会、および外部者より選出されたものが審査を行う。

\* 第 1 号助成事業: 第 1 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業の参加学生への参加費の助成を行った。

#### ●現状

5 月に菊池健さん(社会を動かす研究所、元パナソニック役員)にお知恵を頂き、CSR などに関心の高い企業を数社ご紹介いただいた。5 月末にはスタッフ 2 名(上野、頼政)がグンゼ(株)の CSR 担当者を訪問し、未来基金を運営するにあたって企業側の意見を聴く機会を頂いた。その際に「企業の寄付が一口 10 万円は高く、CSR 担当者の裁量で捻出しやすい 5 万円ご上限である」ことが指摘された。このような意見を踏まえ再度、未来基金のしくみ、運営を見直し、リーフレットを作成し、社会にアピールしていく。現在、未来基金への寄付として約 13 万円の入金を確認されている。今年度は 1000 万円を目標に各方面に寄付を呼びかけ、集めていく。